**２０２３年７月28日(金)　ベルウィン（あさま）会場**

 横澤放川

 雀の子よくよく鳴きぬ虚子の道 吉井素子

〇 凌霄花や家に隣りて兵の墓 奥坂まや

 炎天の濛気一塊浅間山 奥坂まや

 道をしへ空也の杖の光りゐて 坂本遊美

 油蝉古鋸を挽く如く 奥坂まや

 奥坂まや

 蟬の声フーガとなりし山の寺 櫻井耕一

 手庇に余る太陽矢車草 国見敏子

〇 大空をうつす隙なし青田原 松本千代美

 蟬時雨滅びし白の広さかな 辻　和子

 もぎたての胡瓜噛みたる音軽し 櫻井耕一

 国見敏子

 極暑さへなつかしくある小諸かな 坂本遊美

 斑猫を追うおんぶ紐きゅつと締め 苫野とまや

 大空をうつす隙なし青田原 松本千代美

 風穴の霧に朝日の縞模様 山下添子

〇 凌霄花や家に隣りて兵の墓 奥坂まや

 松本千代美

〇 雀の子よくよく鳴きぬ虚子の道 吉井素子

 生きるすべ導きたまふ道をしへ 林　美佐子

 おはやうと子の次々と青田風 坂本遊美

 俳小屋に整ふ句座や沙羅の花 吉井素子

 風穴の霧に朝日の縞模様 山下添子

 苫野とまや

 ちゆんと母ちゆくと父呼ぶ夏燕 松本千代美

 蕾つけ氷室に花の眠りをり 山下添子

 手庇に余る太陽矢車草 国見敏子

 朽ち戯るゝ倒木に咲く鴨足草 北尾千草

〇 氷室古り神の寝息も白く古り 辻　和子

 吉井素子

 凌霄花や家に隣りて兵の墓 奥坂まや

 道をしへ空也の杖の光りゐて 坂本遊美

 姥百合の向きの四方に山の道 山下添子

 虚子の文字なつかしくある晩夏かな 加瀬みづき

〇 ちゆんと母ちゆくと父呼ぶ夏燕 松本千代美

 辻　和子

〇 郎党の涼しき墓と灼くる墓 横澤放川

 ちゆんと母ちゆくと父呼ぶ夏燕 松本千代美

 涼風も募れば凄し虚子旧居 横澤放川

 斑猫を追うおんぶ紐きゅつと締め 苫野とまや

 張り極むる青鬼灯や陽が落つる 国見敏子

 加瀬みづき

〇 斑猫を追つて真青な浅間山 苫野とまや

 もてなしの胡瓜に力もらひけり 坂本遊美

 極暑さへなつかしくある小諸かな 坂本遊美

 夏落葉ひらり氷穴深さ知る 北尾千草

 炎天へ突き上げし手のおきどころ 国見敏子

 坂本遊美

〇 雀の子よくよく鳴きぬ虚子の道 吉井素子

 川風の灯心（とうすみ）とんぼ遊行めく 奥坂まや

 氷室古り神の寝息も白く古り 辻　和子

 遠雷や一人の店で一人呑み 辻　和子

 青りんご虚子の小諸に師を偲び 吉井素子

 山下添子

 せせらぎは山の息吹や青胡桃 奥坂まや

 胸張れるものは盛ゆる夏淺間 横澤放川

 氷室古り神の寝息も白く古り 辻　和子

〇 ちゆんと母ちゆくと父呼ぶ夏燕 松本千代美

 斑猫を追うおんぶ紐きゅつと締め 苫野とまや

 北尾千草

 坂道を登りて出合ふ涼しさよ 坂本遊美

 道をしへ天守閣へとつづく坂 加瀬みづき

 ナナフシの足で宙掻き葉を歩く 山下添子

〇 遠雷や一人の店で一人呑み 辻　和子

 蕾つけ氷室に花の眠りをり 山下添子

 林美佐子

 風穴の霧に朝日の縞模様 山下添子

 氷室古り神の寝息も白く古り 辻　和子

 夏落葉ひらり氷穴深さ知る 北尾千草

〇 胸張れるものは盛ゆる夏淺間 横澤放川

 道をしへ天守閣へとつづく坂 加瀬みづき

 櫻井耕一

 涼風も募れば凄し虚子旧居 横澤放川

〇 街道に風蹲る祭り前 辻　和子

 桶に張る真水に蕃茄浮き沈み 松本千代美

 風穴へ我ら誘ふ夏の蝶 山下添子

 大空をうつす隙なし青田原 松本千代美